みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

国立民族学博物館研究報告 vol.026-2; 表紙ほか

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009161

2001—26巻2号

国立民族学博物館研究報告

●
三匹獅子舞の分布————笹原亮二

北タイ女性工場労働者とタン・サマイ言説
——「近代性」への民族誌的アプローチ————平井京之介

映画フィルムの保存に関する研究の動向————園田直子

American Indian Control of Education:
The Blackfeet Response————Will Karkavelas

Musliumovo Syndrome:
To be Alive on the Dead River————Galina A. Komarova

国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 TEL.06-6876-2151

国立民族学博物館研究報告

26巻2号　　2001年

目　次

三匹獅子舞の分布 ……笹原　亮二……171

北タイ女性工場労働者とタン・サマイ言説
—「近代性」への民族誌的アプローチ—……平井京之介……237

映画フイルムの保存に関する研究の動向 ……園田　直子……259

American Indian Control of Education:
The Blackfeet Response……Will Karkavelas……281

Musliumovo Syndrome:
To be Alive on the Dead River ……Galina A. Komarova……315

『国立民族学博物館研究報告』寄稿要項 ……355

『国立民族学博物館研究報告』執筆要領 ……356

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 26 No. 2 **2001**

Sasahara, Ryoji — The Distribution of *Sanbiki Shishimai* 171

Hirai, Kyonosuke — Discourse of *Than Samaj* among Northern Thai Factory Women: An Ethnographic Approach to 'Modernity' 237

Sonoda, Naoko — Conservation of Motion Picture Films 259

Karkavelas, Will — American Indian Control of Education: The Blackfeet Responce 281

Komarova, Galina A. — Musliumovo Syndrome: To be Alive on the Dead River 315

『国立民族学博物館研究報告』寄稿要項

1.『国立民族学博物館研究報告』の目的

『国立民族学博物館研究報告』（以下「『研究報告』」という）は民族学（文化人類学）の発展に寄与するために，国立民族学博物館（以下「本館」という）が刊行する研究誌です。この目的に即して，民族学，人類学及び隣接諸科学に関する論文，資料，研究ノート（以下「論文等」という）を掲載します。

2. 寄稿資格

『研究報告』に寄稿することができる者は，次のとおりです。

(1) 本館の専任教官及び客員教官
(2) 評議員その他本館の組織・運営に関与する者及び関与した者
(3) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者（本館の研究協力者に関する内規に定める者。）
(4) 本館の専任教官が研究代表者として，外部資金により組織する又は組織した研究プロジェクトの研究分担者及び研究協力者（(3) の研究協力者を除く）
(5) その他出版委員会の審査を経て，刊行物審査委員会が適当と認めた者

3. 論文等掲載までの過程

寄稿された論文等は，『研究報告』編集部会（以下「編集部会」という）が選定した審査員による審査結果を踏まえて，編集部会が掲載の可否及び改稿の必要性を決定します。なお，審査員の評価及び意見は，必要に応じて，寄稿者と出版委員会に開示されます。

4. 寄稿者による改稿，最終稿

寄稿された論文等について，編集部会が掲載を決定するまでの間に，必要に応じて寄稿者に改稿を求めることがあります。また，掲載が決定された論文等は，掲載に先立って，寄稿者にその原稿を最終確認する機会が与えられます。

5. 著者校正

寄稿者による著者校正は原則として初校のみとします。校正は，誤字，脱字の類の修正のみとし，新たな文章の書き込みは認められません。

6. 使用言語，文字

論文等において使用する言語は，日本語，英語，フランス語，スペイン語，ロシア語，中国語及びドイツ語のいずれかとします。

論文等を上記以外の言語で書く必要がある場合は，寄稿に先立って編集部会に相談してください。原稿に特殊な文字・記号を用いる場合も同様です。

7. 原稿の長さ

原則として無制限とします。ただし，論文の場合に限っては，「ひとつの論文」として完結する内容と構成であることを要します。

8. 原稿の返却

寄稿された論文等は，採否にかかわらず返却しません。

9. 原稿料等

原稿料の支払い，掲載料の徴収はしません。

10. 執筆要領

原稿の執筆は，別に定める『国立民族学博物館研究報告』執筆要領に従ってください。

11. 寄稿・連絡先

原稿の寄稿及び連絡先は，下記のとおりです。

〒565-8511　大阪府吹田市千里万博公園10-1
国立民族学博物館内
出版委員会『研究報告』編集部会
電話（代）06-6876-2151，ファックス 06-6878-8429
e-mail: hensyu@idc.minpaku.ac.jp

『国立民族学博物館研究報告』執筆要領

1. 論文等の構成

論文は，標題，著者名，要旨，キーワード，目次，本文，（必要に応じて）謝辞，注，参照文献リスト，（必要に応じて）図表（写真を含む）から成るものとする。

資料・研究ノート等は，標題，著者名，本文，（必要に応じて）謝辞，注，参照文献リスト，（必要に応じて）図表（写真を含む）から成るものとする。

2. 表記の原則

日本語表記

日本語の表記は常用漢字，現代かなづかいを用いる。年号，月日その他の数字はアラビア数字を用いる。ただし，慣用されている熟語では漢数字を用いる。

年号は西暦を用いる。外来語は慣用に従う。人名，地名は，現地の発音に近いカタカナ表記を採用する。いずれの場合も，必要に応じて現地語を丸括弧内に附記する。ただし，すでに定着した人名・地名は慣用に従ってよい。

カタカナで表記した現地語単語は，文中で用いることができる。その場合，初出の個所に丸括弧で括って，現地語を附記する。

漢字表記

現地の言語が漢字表記の場合，現地語単語を日本字で表記する。固有名詞以外はカギ括弧で括る。現地の漢字表記がそれに対応する日本字と異なる場合（中国語の簡体字など），初出の個所に丸括弧で括って，現地表記を附記する。

人名表記

アルファベットによる人名表記は，後述する参照文献リストの見出し人名のみを例外として，論文等の使用言語に関らず，日本人氏名のローマ字表記も含めて，名，姓の順に記し，いずれも頭文字は大文字，それ以降は小文字で表記する。

3. 書式細目

標題，著者名

論文等の本文を日本語ないし中国語で書く場合は，日本語ないし中国語での標題および著者名，次いで英語での標題およびローマ字表記の著者名を，この順に記す。本文を欧文で書く場合は，同じ言語での標題およびローマ字表記の著者名，次いで日本語での標題および著者名を，この順に記す。

要旨

論文には，本文に用いる言語に関りなく，論文要旨を日本語および英語で添付する。日本語の要旨は300字，英語の要旨は150語を目安とする。要旨は標題および著者名の次，目次の前に配置し，本文が日本語ないし中国語の論文では，日本語の要旨，英語の要旨の順に，本文が欧文の場合は逆の順に，それぞれ配列する。

キーワード

論文の内容を代表する5語以内のキーワードを，日本語および英語で添付する。

注

注は論文全体で通し番号を付ける。本文中での注番号は，半角の数字と丸括弧で記入する。

例　……である3)。

注の内容文は，本文の次，(謝辞がある場合は) 謝辞の次，参照文献リストの前に一括して，通し番号順に記入する。

注は原則として後注とする。

文献参照の表記

本文および注で参照文献を指示するには，丸括弧で括って，著者の姓，半角スペース，文献刊行年次，コロン，引用ページ数の順に記す。コロンと引用ページ数は省いてもよい。

例　……である (鳥居 1927: 468–469)。

一個所で参照する文献が複数ある場合は，異なる文献をセミコロンで区切って列挙する。

例　(秋葉・赤松 1935; 岡 1935: 58–72; Marcus and Fischer 1986)

同一著者の場合は刊行年を列挙する。

例　(鳥居 1913; 1927)

文献に言及すると同時に，その文献の著者への言及を文中に生かす場合は，文献刊行年次以下を丸括弧で囲ってもよい。

例　鳥居 (1975: 468–469) は……であると指摘している。

論文中に参照する文献の中に，同姓の複数の著者がある場合は，漢字表記の著者名は姓名を記し，ローマ字表記の著者名は名前の頭文字を附記して，区別する。

例　(石田幹之助 1942; 石田英一郎 1951)

(Geertz, C. 1960; Geertz, H. 1963)

同一著者の参照文献に，同一年次に刊行されたものが複数ある場合は，刊行年次にアルファベットをつけて区別する。

例　(鳥居 1913a; 1913b)

参照文献リスト

配列順——原稿末尾の参照文献リストには，本文および注で言及した文献の詳細な書誌情報を，著者のアルファベット順に，同一著者の文献が複数あれば刊行年次順に，列挙する。同一著者の同じ刊行年の複数の文献を参照している場合には，刊行年次にアルファベットをつけて区別し，アルファベット順に配列する。

著者ないし編者は，姓，名の順に記す。日本語の翻訳書の場合，原著者を漢字ないしカタカナで記す。姓をカタカナで表す著者・編者は，姓と名を読点で区切り，名は頭文字のみとする。

欧文文献では，見出しとなる著者ないし編者のみ，姓，名の順に記し，両者の間をコンマで区切る。共著，共編の場合，二番目以後の著者・編者は名，姓の順に記す。編書の編者は，単編は (ed.)，共編は (eds) で表す。

以下，記入すべき書誌情報の要領を日本語文献，欧文文献の2種にわたって述べる。中国語ないし朝鮮語の文献は日本語文献に準ずる。

書誌情報——参照文献リストには，雑誌論文であれば著者，刊行年次，論文の標題，(翻訳であれば) 翻訳者名，収録雑誌，巻号，収録ページ，(必要に応じて) 雑誌の出版地および出版社を記す。

単行本の論文集に収録された論文であれば，著者，刊行年次，論文名，(翻訳であれば) 翻訳者名，収録書の著者ないし編者，書名，(収録書が翻訳であれば) 翻訳者名，収録ページ，

出版地および出版社を記す。欧文の場合は，収録書を In で指示し，編者名は全て名，姓の順に記す。収録書のそれ以外の情報は，下記の単行本の書誌情報の要領に従う。

日本語の論文の場合，論文名はカギ括弧，収録雑誌名（ないし収録書名）は二重カギ括弧で括る。雑誌の巻号は原則としてアラビア数字を用いる。

欧文文献では，論文の標題はローマン体，収録書名（ないし雑誌名）はイタリック体で区別する（印刷原稿上でのその指定方法は後述する）。論文，書名（ないし雑誌名）はいずれも，先頭の文字のみを大文字で，その他は小文字で記す。ただし，固有名詞は頭文字を大文字にする。

単行本は，著者ないし編者，書名，（翻訳であれば）翻訳者名，出版地および出版社を記す。

当該書物がシリーズ中の一冊である場合は，シリーズ名を書名に続けて丸括弧内に記す。欧文文献の場合，シリーズ名はローマン体とする。

例

雑誌論文

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13(4), 311–330。

Keesing, R. M.

1989 Creating the past: custom and identity in the contemporary Pacific. *The contemporary Pacific* 1(1 & 2), 19–42.

論文集所収の論文

鳥居龍蔵

1975 「日本人類学の発達」鳥居龍蔵『鳥居龍蔵全集』pp. 459–470, 東京：朝日新聞社（初出は1927年）。

バーンズ，J. A.

1981 「ニューギニア高地におけるアフリカン・モデル」笠原政治訳，村武精一編『家族と親族』pp. 116–134, 東京：未来社。

Schneider, D.

1976 Notes toward a theory of culture. In K. Basso and H. Selby (eds) *Meaning in anthropology*, pp. 197–220. Albuquerque: University of New Mexico Press.

Ardener, Edwin W.

1985 Social anthropology and the decline of modernism. In J. Overing (ed.) *Reason and morality* (A.S.A. monographs 24), pp. 47–70. London and New York: Tavistock Publications.

単行本

柳田国男編

1935 『日本民俗学』東京：岩波書店。

Clifford, J. and G. E. Marcus (eds)

1986 *Writing culture: the poetics and politics of ethnography*. Berkeley, Los Angeles and London: University of California Press.

翻訳書

エリアーデ，M.

1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術』堀一郎訳，東京：冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 *The rites of passage*, translated by M. B. Vizedom and G. L. Cafee. Chicago: The University of Chicago Press.

4. 図表および写真

図，表ごとに，「図1」，「表1」の形式で通し番号をつけ，それぞれの標題，説明，出典等を記す。図のカラー印刷を必要とする場合は，編集部会に相談してください。

写真は，写りの明瞭なもので，手札判以上の大きさに焼き付けたものを用いる。図表に準じて写真ごとに通し番号，説明，撮影者名をつける。カラー写真を必要とする場合は，編集委員会に相談してください。

5. 版権等

文献の引用に著作権・版権所有者の許可が必要な場合，あるいは図版ないし写真を掲載するために版権の取得が必要な場合は，寄稿者が手続きを行ない，費用を負担する。

6. 原稿の媒体

寄稿原稿は横書きとし，原則としてフロッピーに収録したファイルと，A4 判の用紙に印刷した原稿との双方を提出する。

手書き原稿による寄稿を希望する場合は，事前に編集部会に相談してください。

ファイル形式

ファイルは可能な限り，アスキーテキスト（段落毎の改行）で収録したものを提出する。ファイルには地の文章のみを収録し，例えばインデントのためのタブ，スペースなど，書式情報は含まれていないほうがよい。

原稿作成に使用したワープロのファイル形式によって収録したファイルを，同じフロッピーに添付してもよい。

ファイルの構成

原稿のファイルには，標題，著者名，要旨，キーワード，目次，本文，（必要に応じて）謝辞，注，参照文献リストの順に収録する。

注の作成および本文への注の記号の記入は，ワープロの注の機能を用いず，本文とは別個に，（謝辞がある場合は）謝辞とともに，注としてまとめて収録する。

印刷原稿

印刷原稿は A4 版の用紙を使用し，寄稿者の希望する書式を反映させた印面で印刷する。

注の記号を手書きの赤線で囲み，図表写真の挿入個所，アスキーファイルで表現し得ない書式上の指定（ルビ，特殊な文字，記号，欧文のイタリック体の指定等）を，手書きで赤で記入する。欧文のイタリック体は赤の下線で示す。

ファイル原稿に反映し得なかったその他の書式情報も，手書きで赤で書き込む。

図表

図表は各図表ごとに別紙に作製し，一括して印刷原稿に添付する。添付する図表は，版下として使用しうる質のものであることが望ましい。編集部会にトレースを委ねる図は，その旨を注記する。

国立民族学博物館研究報告　26巻2号

〔監　　修〕
石　毛　直　道
〔編集部会長〕
長　野　泰　彦
〔編集部会委員〕
江　口　一　久
韓　　敏
熊　倉　功　夫
佐々木　史　郎
新　免　光比呂
立　川　武　蔵
田　邉　繁　治
西　尾　哲　夫
平　井　京之介
森　　明　子

平成13年10月22日　発　行　非売品

国立民族学博物館研究報告　26巻2号

編集・発行　国立民族学博物館
〒565-8511 吹田市千里万博公園10-1
TEL　06 (6876) 2151(代表)

印　　刷　中西印刷株式会社
〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入
TEL　075 (441) 3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.26 no.2
2001

Sasahara, Ryoji	The Distribution of *Sanbiki Shishimai*
Hirai, Kyonosuke	Discourse of *Than Samaj* among Northern Thai Factory Women: An Ethnographic Approach to 'Modernity'
Sonoda, Naoko	Conservation of Motion Picture Films
Karkavelas, Will	American Indian Control of Education: The Blackfeet Response
Komarova, Galina A.	Musliumovo Syndrome: To be Alive on the Dead River

ISSN 0385-180X

National Museum of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-6876-2151